小児・乳幼児の家庭内の事故や不慮の事故

2020 年厚生労働省が公表した統計資料によると小児の死因の上位に不慮の事故が入っています。不慮の事故の多くは家庭内で起きています。大まかな事故の原因をご紹介しますので、家庭内の危険な箇所を把握し、未然に事故を防ぎましょう。

年齢別死因	０歳	１～４歳	５～９歳	１０～１４歳
1位	先天奇形等	先天奇形等	悪性新生物	自殺
2位	呼吸障害等	悪性新生物	不慮の事故	悪性新生物
3位	乳幼児突然死症候群	不慮の事故	先天奇形等	不慮の事故
4位	出血性障害	心疾患	心疾患	心疾患
5位	不慮の事故	インフルエンザ	インフルエンザ	先天奇形等

誤飲・誤嚥

小さな子供は物を口に入れる特性があるため、小さいものを口にしたときに誤飲してしまうことがあります。３歳の子供が口を開けた時の最大口径は約４㎝のためタバコや硬貨、ボタン電池、ペットボトルのキャップ、ピーナッツ、小さなおもちゃなど、口に入るものは、誤飲の危険性があります。トイレットペーパーの芯は直径が約 ４ ㎝のためトイレットペーパーの芯を通り抜けるような物は棚にしまうか、手の届かない所に移しておきましょう。

洗剤類やタバコ、薬剤等を誤って飲み込んでしまった場合は中毒になる恐れがあります。口の中に残っている物は吐き出させ、公益財団法人日本中毒センターに問い合わせをするか、早期に医療機関を受診しましょう。

公益財団法人日本中毒情報センター（一般専用電話、情報提供料：無料）
大　阪　　０７２－７２７－２４９９（365 日 24 時間）
つくば　　０２９－８５２－９９９９（365 日９時～21 時）

口に物を詰まらせて気道が塞がると窒息を起こします。窒息してしまった場合は背中を叩き、吐き出させるようにしましょう。

吐き出せずに意識がなくなってしまった場合はただちに胸骨圧迫を開始し、救急車を要請（119）しましょう。

熱傷

動き回る際にやかんや鍋、電気ケトル、お湯入りのカップラーメン等を倒し高温の液体が体にかかる、使用中のアイロンに触れる、炊飯器の水蒸気に触れるなどにより、やけどを負うことがあります。

高温な物の近くで子供が遊ぶことのないように注意しましょう。

子供は大人に比べて、皮膚自体が薄いため重症になりやすいです。

手足などの一部のやけどの場合は水道水を流したままバケツや洗面器に水を張り、やけど部分を浸します。水ぶくれは治りに影響が出るため破らないようにしましょう。

広範囲にやけどを負った場合は、広範囲の冷却や気化熱による低体温症の危険があるため、バスタオイルや毛布等で保温しましょう。

溺水

溺水は、「浴槽、海、河川、プール等、旅行中に遊ばせていたら溺れてしまった。」「自宅で目を離した隙に浴槽へ落ちてしまった。」などが考えられます。

小さな子供は体に比べて頭が重いため、水面を覗き込んでいただけでも簡単に水中に転落することがあります。子供は水深 10 ㎝でも溺れる危険性があるため、子供から目を離さないようにしましょう。

また、海や河川、プールで遊ぶ際は、ライフジャケットや浮き輪等を使用しましょう。

転倒・転落

動き回れるようになると、一層周りの危険が多くなります。足腰が十分に発達していないため、小さな段差や物につまずいて怪我をすることがあります。ベビーベッドから転落する、階段で足を滑らせ転落する、ベランダで柵を乗り越えて墜落することも考えられます。ベビーベッドは柵のあるものを使用し、ベランダには足場になるものがないかチェックしてみましょう。

救命講習について

長野市消防局では各消防署で年間を通じて心肺蘇生法・応急手当の普及活動を行っております。普通救命講習Ⅲ、上級救命講習には講習内容に小児・乳幼児・新生児の心肺蘇生法が組み込まれています。興味のある方はぜひ受講をご検討ください。

詳しくは長野市ホームページをご覧になるか、最寄りの消防署へお問い合わせください。

今回紹介した家庭内の危険箇所は一部にすぎません。
ご家庭の皆さんで確認し、危険を減らして子供の成長を見守りましょう。

担当　松代消防署若穂分署